

## < 講習会開催情報 >

## 認定実務実習指導薬剤師養成講習会と更新講習会

令和5年度の認定実務実習指導薬剤師養成講習会と更新講習会が下記の通り行われますのでお知らせします。

新規に実務実習指導薬剤師資格を取りたい方は、研修応募要件を確認の上お申し込み下さい。また、指導薬剤師である方は、有効期間が6年ですので、認定を受けた日から5年以上経過しているかをご確認の上、お申し込み下さい。

【開催日】(養成講習会、更新講習会共に) 令和5年7月30日(日)

【会場】(養成講習会、更新講習会共に) 岩手県薬剤師会館 研修室

【申込期限】(養成講習会、更新講習会共に) 令和5年6月29日(木)

※養成講習会は定員を50名とし、定員に達し次第締め切る。

※養成講習会受講決定者は、フォーム記入の勤務先住所にハガキを送付。

【受講料】(養成講習会、更新講習会共に) 薬剤師会会員：1000円

【申込方法】下記URLのフォームから申し込んでください。

### 養成講習会

<https://forms.gle/VqDGi3BPExKtZP67>



### 更新講習会

<https://forms.gle/V9bw5xTVBkFxws5>



### 認定実務実習指導薬剤師の更新要件

- 更新申請の直近1年以上継続的に薬剤師実務に従事
- 更新講習受講

### 1 研修に応募するための条件

#### ▼ 研修に応募するための条件

- ➊ 薬剤師実務経験が5年以上
- ➋ 6年生業学教育を受けて薬剤師となったものは実務経験3年以上
- ➌ 受講時点での薬剤師実務経験が継続して3年以上の勤務状況を有する者
- ➍ 1週間当たり3日以上、かつ20時間以上の勤務時間を有する者

### 2 研修を受ける

#### ▼ 研修内容

ワークショップ形式と講習会形式の2種類があり、両方とも参加して、講習会受講証と修了書の交付を受ける。

### 3 認定実務実習指導薬剤師の認定申請

#### ▼ 提出書類

以下の書類を揃え、公益財団法人日本薬剤師研修センターの認定実務実習指導薬剤師認定係へ郵送します。

- ➊ 所定の申請書類(認定実務様式1)
- ➋ ワークショップの修了書(WS修了書)の写し
- ➌ 講習会の受講証の写し
- ➍ 履歴書
- ➎ 認定通知書用の官製はがき1枚
- ➏ 認定申請料振り込み明細の写し

令和5年度 認定実務実習指導薬剤師養成講習会(講座①・②・③) プログラム

■ 受講上の注意(10:30~10:40) 岩手県薬剤師会 常務理事 本田 昭二

■ 講座①(DVD 研修 10:40~12:00)

薬剤師の理念 日本薬剤師会 会長 山本 信夫  
<休憩(12:00~12:45)>

■ 講座②(DVD 研修 12:45~14:10)

②-1 平成25年度改訂 薬学教育モデル・コアカリキュラム

②-2 薬学実務実習に関するガイドライン

名古屋市立大学大学院薬学専攻科教授 鈴木 匡

<休憩(14:10~14:20)>

■ 講座③(DVD 研修 14:20~16:00)

③-1 学生の指導(法的問題) 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜

③-2 学生の指導(OBEに基づいた薬局実務実習の進め方)

日本薬剤師会 薬学教育委員会 山田 純一

③-3 学生の指導(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した病院実習)

日本病院薬剤師会 薬学教育委員会 石井 伊都子

## < 安全性情報 >

## レニン-アンジオテンシン系阻害薬などの添付文書改訂

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課は5月9日付の課長通知で、レニン-アンジオテンシン(RA)系阻害剤とメサラジン等5件の添付文書改訂を行い、RA系阻害剤については医薬品・医療機器等安全性情報 No.401 がPMDAから出されていますので情報提供します。

### < RA系阻害剤の胎児への影響に関する注意喚起 >

ACE阻害剤やARBといったレニン-アンジオテンシン系阻害剤は妊婦に投与しない(禁忌)よう注意喚起されているにもかかわらず、投与中に妊娠するなど、妊娠中の暴露による胎児などへの影響(腎不全、頭蓋・肺・腎の形成不全、死亡等)が疑われる症例が続いているとして、妊娠する可能性がある女性への投与は、必要性を慎重に検討し、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、投与が必要な場合には次の注意事項に留意することとされております。

(1) 本剤投与開始前に妊娠していないことを確認すること。本剤投与中も、妊娠していないことを定期的に確認すること。投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。

※上記については、投薬時に確認することが必要です。

(2) 次の事項について、本剤投与開始時に患者に説明すること。また、投与中も必要に応じ説明すること。

- ・妊娠中に本剤を使用した場合、胎児・新生児に影響を及ぼすリスクがあること。
- ・妊娠が判明した又は疑われる場合は、速やかに担当医に相談すること。
- ・妊娠を計画する場合は、担当医に相談すること。

### < 「重大な副作用」の追記 >

- 5-ASA製剤メサラジン(当社10薬局で使用)  
中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、  
薬剤性過敏症候群
- 酢酸亜鉛水和物(ノベルジン® 当社21薬局で使用)  
胃潰瘍
- 抗リウマチ薬レフルノミド(アラバ® 当社2薬局で使用)  
皮膚潰瘍
- アンピシリン水和物  
肝機能障害(定期的な肝機能検査を行う)

引用資料

PMDA：医薬品・医療機器等安全性情報 No.401 (2023年5月)